

郷土の世界遺産に学ぶ教育実践

歴史文化科の取り組み

奈良県立法隆寺国際高等学校

1. はじめに

本校は世界文化遺産「法隆寺地域の仏教建造物」で知られる奈良県斑鳩町にある。学校の規模は、40 人学級で各学年に歴史文化科 1 クラス、普通科 5 クラス、総合英語科 2 クラス(第 3 学年は 3 クラス)の 1 学年 8 クラス(第 3 学年は 9 クラス、3 学年計 25 クラス)である。歴史文化科では、学校設定科目の歴史文化科専門科目「奈良学」「斑鳩学」「仏教美術」「考古学」「民俗学」「世界遺産学」などを通じて世界遺産に興味・関心を持たせ、その価値を理解し、保護や伝承に協力できるような人材を育成する教育活動を展開している。

2. 教育目標

「誠実・創造・気迫・敬愛」の校訓を指針とし、自ら学び、考え、実践できる次代の担い手となり、社会に貢献できる人間の育成を目指す。

3. 歴史文化科の世界遺産学習と法隆寺見学

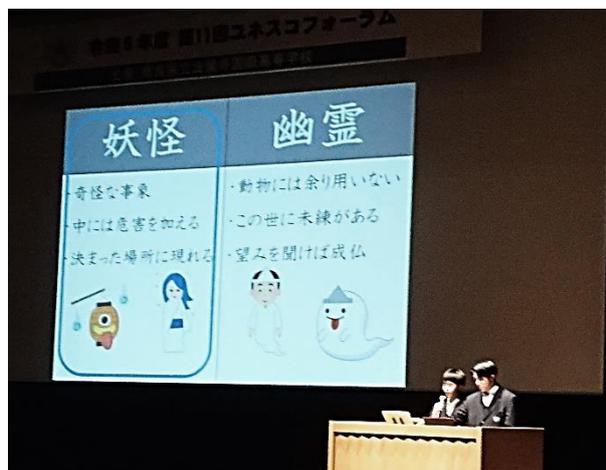
本学科で実施している世界遺産や郷土の歴史・文化に関する主な専門科目は次のとおりである。

- 斑鳩学(第 1 学年)…法隆寺地域の仏教建造物(法隆寺・法起寺)をはじめ、藤ノ木古墳、中宮寺、法輪寺など地元斑鳩町にある文化遺産を見学し、その文化財としての価値、歴史的背景、世界的な文化遺産としての意義などについて学び、レポートを作成する。
- 奈良学(第 1 学年)…奈良県の歴史と文化について学ぶ。県立民俗博物館で生活用具や民家を見学したり、世界遺産「古都奈良の文化財」を構成する元興寺及び奈良町を訪れたり、仏画線描を体験したりしながら、郷土奈良の世界的な文化的価値について広く知識を深め、それを発信する方法について考える。
- 仏教美術(第 2・3 学年)…世界遺産「古都奈良の文化財」を構成する東大寺、興福寺、薬師寺、唐招提寺や室生寺をはじめとする奈良県内及び京都や比叡山などの寺院を現地見学し、その文化的・時代的背景に目を向け、仏像と建築を中心に日本とアジアの仏教文化について広い視野に立って学ぶ。
- 考古学(第 2・3 学年)…橿原考古学研究所の所員からの講義を中心に、考古学遺物について、発掘の成果を踏まえながら学ぶ。その際に研究所附属博物館や黒塚古墳、世界遺産「古都奈良の文化財」を構成する平城宮跡の見学も行う。夏期には発掘実習も希望者に実施する。
- 民俗学(第 2 学年)…郷土の生活文化について、大学教授の講義や現地見学、体験学習を通じて学ぶ。安堵町歴史民俗資料館を見学し、安堵町の灯芯保存会の指導による「灯芯ひき」、本校に講師を招いてのしめ縄作りも体験する。
- シルクロード学(第 2 学年)…世界的視野に立ち、アジアの文化の中で奈良の歴史と文化を考える。
- 奈良万葉学(第 3 学年)…万葉集の歌と歴史的背景について学び、山の辺の道や吉野を実際に歩く。

- 世界遺産学(第3学年)…日本と世界各国の世界遺産について、文化遺産を中心に学ぶ。日本の世界遺産をはじめ、新たな登録や危機遺産にも目を向けながら学ぶ。ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所(ACCU)の「世界遺産教室」も受講する。
- 法隆寺見学(第1学年全体)…学校行事として、世界文化遺産である法隆寺を1年生全員で見学する。歴史文化科1年生は普通科・総合英語科の生徒に現地で法隆寺の文化財について説明する。2学期当初より、歴史文化科1年生は6つの班に分かれ、「中門」「金堂」「五重塔」「大講堂」「大宝蔵院」「夢殿」の担当を決定し、各班で工夫を凝らしたパネルを作成するなど、法隆寺の魅力を他の生徒らに伝える方法を考える。
- 課題研究(第2・3学年)…班別に歴史または文化に関するテーマを決め、それに沿って調査研究を行い、学期に1回発表会を実施する。2年間の課題研究の集大成として、学習成果発表会であるユネスコフォーラムで発表する。今年度のユネスコフォーラムは12月にいかるがホールで開催した。専門科目で学んだことを生かしながら、自分たちの取材によって新たに発見したこと、気づいたことをまとめ、パワーポイントおよび原稿等を作成して発表した。また、研究成果をまとめた『歴史文化科紀要』も完成させた。



法隆寺見学



ユネスコフォーラムでの発表

4. おわりに

今年度の3年生が入学した令和3年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、歴史文化科1年生が例年行ってきた校外学習等は中止を余儀なくされ、法隆寺見学における他学科生徒への解説・案内もできなかった。しかし、本年度は校外見学や講師招聘授業を新型コロナ感染症流行前のように実施することができた。ユネスコフォーラムについては、本年度から12月実施となり、1学年・2学年全員参加のもと、歴史文化科による課題研究に加え、様々な国際交流の成果を発表することができた。歴史文化科の発表では「刀の衰退とこれからの価値」、「人と香りの関係性」、「姿を現さなくなった妖怪たち」などをテーマとした。発表後は奈良大学の教授から講評および助言をいただき、それらを踏まえた上で、来年度のユネスコフォーラムの発表内容の拡充・改善に向けて、生徒への指導を進めていきたい。